

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

地域とともに豊かな心を育む学校づくり
～地域文化や人とのかかわりを通して～

1 Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校では、これまで地域の人々と関わりながら教育活動を展開してきた。PTA・校区各種団体の活動は活発で自主的に取り組みが行われている。子どもと地域住民のふれあいをめざした「福岡ふれあいフェスティバル」は地域の伝統的な行事となっている。また、地域教育ボランティアの協力により、登下校の見守り、施設の整備や読み聞かせ活動が継続して行われている。

平成23年度から3年間、豊橋市教育委員会から「学習指導」の研究委嘱を受け、自ら問題に向かい、その解決に向かって動き出し、他の意見取り入れて自分の考えを深めていく子どもの育成を目指して研究をすすめてきた。

そこで、これまでの実践や研究を生かし、地域素材や子どもたちの興味・関心に基づいた問題解決的な学習を教育課程の中に位置づける。そして、子どもの追究を支援するために、地域の施設や文化財・人材を取り入れたESDカレンダーを作成して教育活動を展開していく。このESDカレンダーを基にした実践を継続して行うことで、ESDの推進を図ろうと考えた。

2 Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校でこれまで取り組んできた学習を深めていくことで、地域の人とのつながりが深まり、持続可能な社会づくりの担い手を育むことができると考える。そこで、人とのかかわり・地域とのかかわりを基本としたESDを加味した授業をさらに積み重ねることで、地域に誇りを持ち、持続可能な社会をつくる資質や能力を育てることを目的とする。

そのために、本校では以下の3つの活動で、次の目標を掲げている。

(1) 地域の人とかかわる活動

地域の方に教わったり、いっしょに活動したりすることで、地域の特色を知るとともに、人々との交流を通して、思いやりの心を育み地域の一員としての自覚を持たせる。

○地域のお年寄りから昔の遊びを教わったり、昔話を聞いたりする活動

○昔の暮らしや米づくりについて地域の人に教わる活動

(2) 地域の歴史や文化にふれる活動

自分たちの地域の歴史や産業を調べ、理解することで、現在の生活に至る変化に気づくとともに、現在の生活を気づいた人々の思いを知り、今日的課題を自分のものとして把握し、解決に向けて自ら動き出せる子どもを育成する。

○地域の自然や産業・公共施設等を調べる校区探検活動

○福岡の歴史探検活動

(3) 行事等を関連づけた活動

保護者、地域住民が一体となって、成果を発表する機会をもつことで地域への誇りや愛着心を育み、人とのかかわりやつながりを重視する姿勢を養う。

○成果の発表や披露のための活動

(福岡ふれあいフェスティバル、福岡っ子発表会、授業参観・学校公開日)

3 Execution (プロジェクトの実施)

(1) ESDカレンダーの作成

各学年で目標を達成するために、各教科や総合的な学習の時間・生活科等で地域学習と行事とを関連づけて活動を進めていく。そのための実践計画として、ESDカレンダーを作成して実践を進める。

教科・領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語						3年 ポップづくり	3年 盲導犬の訓練	6年 未来に生かす自然のエネルギー	2年 福岡の昔話を聞く会	6年 ふるさとのよさを紹介しよう		
社会		5年 パケツ稲植え	3年 スーパーの見学			5年 稲刈り	5年 脱穀もみすり	6年 戦争体験を聞く会	3年 トマト農家見学 5年わら飾り	4年 筆づくり		
総合的な学習 生活科		6年 防災	2年 町探検 六十の市	1・2年 七夕会		1年 昔遊びの会	2年 町探検 六十の市	4年 昔の福岡小		4年 2分の1 成人式		
特別 活動	学校行事等		学校公開	福岡ふれあい フェスティバル			学校公開	福岡っ子 発表会		授業参観		
	児童会関係	アルミ缶集め・ペットボトルキャップ回収										
		あいさつ 運動				あいさつ 運動					ありがとう 月間	

(2) 活動の実践例

① 老人クラブや地域各種団体との交流

1年生は、老人クラブの方に、お手玉・コマ回し・竹とんぼ・あやとりなどの昔遊びを教してもらっている。また、七夕の時期には、老人会だけでなく地域の各種団体の協力によって笹飾りを準備して、1・2年生合同の「七夕会」を行っている。また、2年生は国語の教材に関連させて、地域の方から福岡に伝わる昔話を聞く会を行っている。核家族化が進む中、お年寄りとのふれあいや昔ながらの文化に触れることが少なくなった子どもたちにとって、昔遊びや校区に伝わる昔話を聞くことで、校区に対する愛着を深める機会となっている。



昔遊びの会（1年）



福岡の昔話を聞く会（2年）



七夕会（1・2年）

② 5年 バケツ稲を育てよう

この地域は、店舗と住宅地が大部分を占めているため、水田はほとんどない。そのため5年生の社会科「米の生産」の学習に合わせ、10年ほど前からバケツ稲の栽培を行っている。米作りの学習は、地域の方に苗を分けていただき、栽培方法を教わりながら取り組んでいる。また、地域の方をお願いして、収穫後のわらを活用して、しめ飾りやわら細工を楽しむ会も行っている。米作りの学習は、地域の人たちの協力により、子どもたちにとって得難い体験・探究学習の場となっている。



わら細工を楽しむ会（5年）



バケツ稲を育てよう（5年）



③ 「六十の市」の見学

学校の北側の通りでは、毎月「6」のつく日と「0」のつく日に市が開かれている。昭和39年から続いていて、地域の人々に親しまれている。お客さんたちは、お店の人との会話ややりとりを楽しみながら、買い物をしている。校区探検に行くと、必ず子どもたちは、「六・十の市」に興味を示す。実際に買い物をしたり、お店の人や買い物に来ている地域の人にインタビューしたりする学習を通して、自分たちの住む町のよさや人々の温かさに気づき、地域とのつながりを深めている。



校区探検・六十の市（2年）

※その他、ESDカレンダーで紹介した活動も、年間を通して行っている。

4 Type of materials to be used (使用する教材)

- 「かがやく豊橋」 2012 豊橋市教育委員会
- 「わらべぐさ～福岡のむかしばなし～」 1979 豊橋市立福岡小学校PTA
- 「校区のあゆみ 福岡」 2006
- 「小学校 キャリア教育の手引き」 2010 文部科学省
- 「キャリア教育ノート」 2012 愛知県教育委員会

5 Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

指導教師は、普段の生活の中でも児童の態度・姿勢を観察し、プロジェクトの後にはふり返しカードへの記述によって評価する。それとともに、以下のような評価方法をとる。

- ・児童のさまざまな活動への成果を、事後のまとめや感想などから把握する。
- ・学習のまとめとしての授業公開や、行事（福岡っ子発表会）等での成果の発表や地域への発信を通して、関心・意欲・態度等を観察し、評価する。

上記の評価とともに、学校評議員を通じた地域からの評価や、行事・保護者へのアンケート調査、全保護者を対象としたアンケート調査から、ESDカレンダーの見直しを図り、地域とともに生きる福岡っ子を育成するための活動内容を改善していく。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター（※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会）に活動のレポートを提出します。)

2/24/2014

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職) Principal

Institution's name (学校名)

Fukuoka Elementary School